特別支援教育班の研究における諸検査等一覧

|  |  |
| --- | --- |
| 検査名等 | 説明 |
| Ｓ‐Ｍ社会生活能力検査 | 子供の社会生活に必要な基本的な生活能力の発達を明らかにすること。子供の日常生活をよく知っている担任や保護者等に行われる質問紙法の検査で社会生活年齢と社会生活指数に換算される。 |
| ヴァインランド－Ⅱ  適応行動尺度 | 集団や社会に適応するスキルを数値化して捉える発達検査である。「コミュニケーション」「日常生活スキル」「社会性」「運動スキル」の４つの適応行動領域と「不適応行動」の領域で構成され、それぞれの領域に「表出言語」「身辺自立」「対人関係」等の下位領域が設けられている。  対象者個人内の強みと弱みなど、発達の特徴を捉えることができる。 |
| 応用行動分析  （ＡＢＣ分析） | 行動が繰り返され学習されるメカニズムを先行条件Ａ「どのようなときに」行動Ｂ「どのような行動が起き」結果事象Ｃ「その結果どうなったか」という視点から行動を分析する手法の一つ。 |
| ソーシャルスキル  トレーニング  （ＳＳＴ） | ＳＳＴは、社会生活技能訓練で、認知行動療法と社会学習理論を基盤にした支援方法である。社会生活において、コミュニケーションの面で困難さを抱える状況を、訓練によって対人関係を築き、円滑な人間関係を維持し、社会に適応していくための知恵や術を身に付ける技法である。 |
| ＣＡＭＩ  (Control,Agency,and Meands-Ends Interview) | スキナーらがバンデューラの言う自己効力を、課題の達成領域を中心に発展させた活動理論をもとに作成した調査用紙。統制感・手段保有感・手段の認識をもとに、学業領域について89項目から分析的に捉えることができる。 |
| 自己効力測定尺度 | 鈴木誠がＣＡＭＩを参考に、統制感・手段保有感に着目して、国内の教科教育の中で学習意欲を自己効力から捉えるために開発した尺度。 |
| 心理的ストレス反応尺度  （ＳＲＳ-18） | 心理的ストレス反応尺度は、ストレス程度を測定できる心理検査である。「抑うつ・不安尺度」、「不機嫌、怒り尺度」、「無気力尺度」の３因子18項目の合計点によって心理的ストレス反応の程度を評価する。 |
| 自己受容感尺度短縮版  （ＳＡＳＳＶ） | 自己受容感尺度短縮版は、自己受容感を測定できる心理検査である。「生き方」、「他者との関わり」、「情緒不安定ではない」、「自信、自己信頼が欠けていないこと」、「自分自身への満足感」の５因子25項目の検査である。 |
| 自尊感情測定尺度  （東京都版） | 東京都では、自尊感情を「自己に対する評価感情で自分自身を価値あるものとする気持ちのこと」と捉え、「自己評価シート」では、子供に自己評価を行わせること等で、子供自身が自己をどのように捉えているかを把握する。「他者評価シート」では、教師や保護者が子供の行動を観察し、子供の自尊感情の傾向を把握する。 |
| 職業レディネス・テスト  （ＶＲＴ）第３版 | 中学・高校での進路（就職）指導・相談の用具として開発された心理検査であり、生徒の職業に対する準備度（レディネス）を把握し、生徒や求職者が進路選択の様々な場面で自分自身を見つめるのを援助し同時に進路探索の手掛かりを提供する。 |